

## 九州農政局入札等監視委員会 審議概要

(ホームページ掲載日：令和5年11月28日)

開催日及び場所		令和5年9月28日(木曜日) 熊本地方合同庁舎 A棟10階 農政第7会議室			
委員		福西 武夫(弁護士) 砥塚 絵理子(税理士) 小野 由起子(ジャーナリスト)			
審議対象期間		令和5年4月1日～令和5年6月30日			
審議対象案件		244件 うち、1者応札案件41件 契約の相手方が公益法人等の案件0件			
抽出案件		8件 うち、1者応札案件4件 (抽出率3.2%) (抽出率9.8%) 契約の相手方が公益法人等の案件0件 (抽出率0%)			
抽出 案件 内 訳	工事	一般競争		3件 うち、1者応札案件2件 契約の相手方が公益法人等の案件0件	
		指 名 競 争	公募型指名競争		0件
			工事希望型競争		0件
			その他の指名競争		0件
		随意契約		1件 うち、1者応札案件0件 契約の相手方が公益法人等の案件0件	
	業務	一般競争		1件 うち、1者応札案件1件 契約の相手方が公益法人等の案件0件	
		指 名 競 争	公募型競争		0件
			簡易公募型競争		0件
			その他の指名競争		0件
		随 意 契 約	公募型プロポーザル		0件
			簡易公募型プロポーザル		1件 うち、1者応札案件0件 契約の相手方が公益法人等の案件0件
			標準型プロポーザル		0件
			その他の随意契約		0件
		物品・ 役務等	一般競争		1件 うち、1者応札案件1件 契約の相手方が公益法人等の案件0件
			指名競争		0件
随意契約(企画競争・公募)			0件		
随意契約(その他)			0件		
(特記事項)					

	意見・質問	回答等
委員からの意見・質問、それに対する回答等	<p>1. 令和5年度第1四半期入札方式別発注状況について</p> <p>意見・質問なし</p>	
	<p>2. 抽出工事及び業務並びに物品・役務等契約について</p> <p>(1) 抽出工事</p> <p>①令和4年度沖永良部農業水利事業地下ダムグラウチングテスト(その2)工事</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グラウチングテストは引き続き行ったところで本格的な施工を行うのか。</li> <li>・1者応札であるが、専門的な技術的が必要な工事か。</li> <li>・平成19年度からの工期だが、かなり工事は進んでいるのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地中の浅い箇所と深い箇所で行う計画であり、浅い部分を「その1工事」とし、今回の「その2工事」はそれより深い部分のテストとなる。テスト終了後、専門家に諮り、了解を得られたら本格的な施工に入っていく。</li> <li>・グラウチングについて同種同様の実績を有する業者は22社、入札公告のダウンロードした者は8者あったところである。</li> <li>・全体工期が令和7年度までとなっており、止水壁はほぼ完成している。</li> </ul>
	<p>②令和4年度筑後川下流福岡国営施設機能保全事業排水路設備(田川城島4号線他)改修工事</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この改修工事は、水路を施工するイメージと思っていたが、点検、改修、メンテナンス、交換が中心の工事であることが説明で理解した。 筑後川下流域(地区)は、毎年豪雨によって、かなり水害が多いと思うが排水門の開閉操作は自動か。</li> <li>・今回は、施工位置の箇所を予算化して施工しているのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この地区については、土地改良区の職員が水路に設置した水位計、降雨の状況を見ながら開閉の判断し、手動で調整している。 場所によっては遠隔操作可能な施設もある。</li> <li>・路線毎に優先順位をつけ、地域の被害が多い等の実情を考慮して施工している。また、仮設道路を設置した場合、その際は農家に営農を1年間休んでもらう等の調整を行いながら</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回、「企業実績重視型」を採用した理由は何か。「施工実績確認型」との差は何か。</li> <li>・「企業実績重視型」だと参入しやすいのか。</li> <li>・技術者評価について「企業実績重視型」のため開札後確認とあるが。</li> </ul>	<p>工事を施工している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入札の不調不落対策として新規参入者が入りやすいように「施工実績確認型」の制度ができ、次に不調不落対策として求める実績を緩和した「企業実績重視型」ができた。本工事は、不調不落対策として「企業実績重視型」を採用している。</li> <li>・「施工実績確認型」の評価項目は企業評価と技術者評価の項目があるが、「企業実績重視型」は、企業評価のみなので申請されやすく企業が参入しやすい。</li> <li>・「施工実績確認型」は工事の難易度が高く、経験がある監理技術者に管理し品質を確保していただく必要がある工事となる。企業が責任を持ってバックアップできる一般的な工事については「企業実績重視型」となる。</li> <li>・工事の実施に必要な一級土木管理技士などの資格があるか、開札後に確認を行う。</li> </ul>
	<p>③令和3年度筑後川下流右岸農地防災事業 神崎4号線（本告牟田工区）工事（第4回変更）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災事業とは何か。</li> <li>・クリークの総延長は173kmあって今回の延長は、557.7mであるが、総事業費はいくらか。</li> <li>・クリークは網の目のようにあるが、農地防災事業の対象はどれか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前歴事業は、かんがい排水事業であったが、今回は、水路の再整備により農地への湛水被害を防止する目的の事業メニューである防災事業を選んでいる。</li> <li>・総事業費は令和4年度時点で約567億円である。</li> <li>・基本的に南北に流れている縦線のクリークが国営施設の対象で横線は県営施設の対象である。</li> </ul>

	<p>④令和3年度八代平野農業水利事業遙拝頭首工補強補修復旧工事（第3回変更）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設全体が工事の対象か。</li> <li>・熊本豪雨の被害で流されたものか。単純な老朽化による工事か。</li> <li>・変更の内容は当初で入っていなかった理由は何か。</li> <li>・工事を始めてから判明したのか。</li> <li>・当初契約で参加者数が0者であった要因は何か。</li> <li>・時期的なものが要因か。</li> <li>・最終的に受注者が決定にいたった経緯は何か。</li> <li>・評価点に基づくものであると理解した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の工事は左岸側の施設が対象である。河川の流れを確保するため、翌年度以降に残り半分の工事を行う</li> <li>・災害復旧の部分は、大雨によるものである。</li> <li>・湾洞沈砂池ゲート開閉機復旧工は、工事実施中に開閉機の故障が判明したもので開閉機が復旧しないと沈砂池が使えなくなり影響が大きいことから緊急的に追加した。 また、洪水吐（起伏式）ゲート復旧工についても工事実施中にゲートの故障が判明したもので、洪水吐ゲートは洪水を流す施設のため速やかに復旧しないと水面で災害が起きやすいとのことから緊急的に追加した</li> <li>・然り。</li> <li>・当初、総合評価落札方式（標準B型）の工事で公告していたが、令和2年7月豪雨の起こった後、上流域において復旧工事を国土交通省が行っている。 多数の業者がダウンロードを行っていたが、災害復旧と時期が重複したことから、監理技術者、作業員の確保が困難であったため参加者がいなかった。</li> <li>・然り。</li> <li>・入札不調の随意契約としてダウンロードした者と有資格者を洗い出し、その中から有資格者に点数付をして点数の高い順に随意契約に応じるか意思確認を行い、了解を得た有資格者と随意契約を行った。</li> </ul>
	<p>(2) 抽出業務</p>	

	<p>①令和5年度国営造成施設緊急整備対策調査大野川上流地区大蘇ダム浸透抑制効果分析業務</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全性評価委員会を立ち上げていたと思うが、今年度も継続しているのか。</li> <li>・この業務が今年度行われた理由は何か。</li> <li>・毎年この業務を実施するのか。</li> <li>・今回、落札率が98.4%と高い要因は。</li> <li>・特殊な専門性がもとめられる業務であるため、1者に集中するようになるのではないか</li> <li>・大蘇ダム浸透抑制対策工事を行った業者と今回の業務の業者に関係性はないか。関係性があれば付度があるのではないか。</li> <li>・了解した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員との検討資料の作成等を実施する業務であって、委員会開催については未定である。</li> <li>・類似業務は過年度も行っている。このダムは供用開始から浸透量が多いため調査業務は継続している。</li> <li>・調査状況に応じてと考えている。</li> <li>・データ整理や分析等の標準歩掛がない業務内容のため、それぞれの歩掛について業者から見積書をとって歩掛を決定。入札公告の際に項目毎の歩掛と数量を現場説明書や積算参考資料に明示し、高い精度で落札額が積算できるため高くなった推測している。</li> <li>・入札条件については、ダムの設計、機能診断調査を条件とし、A等級のみで18者あり、そのうち9者がダウンロードしている。B等級、C等級を入れればもっと増えることになる</li> <li>・浸透対策工は土木業者が実施しており、業務はコンサルタントとなるため関係性はない。</li> </ul>
	<p>②令和5年度地区調査上場地区用水計画検討その他業務</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本案件は落札率が99.8%と高いが、本案件に限らず簡易公募型プロポーザル方式は総じて落札率が高いが理由はいかに。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・簡易公募型プロポーザル方式の業者選定方式については、公募後、まず各業者が業務内容、技術者の業務状況等を勘案し、競争に参加するかの判断を行い、参加する場合は技術提案書を作成・提出する。発注者は提出された技術提案書を予め定められた基準に基づき審査・点数付けを行</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 予定価格がかなり高い精度で推測できる入札方式ということか。</li> <li>・ 今回は1者応札であったが、複数者でも審査結果に基づき1者に絞られるということか</li> <li>・ 工期が300日以上あり、技術者が長期間張り付いている状況で契約金額の約1,650万円は安いように思えるが。</li> </ul>	<p>い、最高点の業者と随意契約を行う仕組み。一方、予定価格積算の根拠となる、技術者単価・歩掛等のデータがすべて公表されているため、予定価格をかなり高い精度で推測可能となっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ この方式については、お尋ねのとおり</li> <li>・ 提案書の内容で競っていただくということになる。</li> <li>・ 基準に基づいた金額であり、他地区の同種業務においてもほぼ同様となっている。</li> </ul>
	<p>(3) 抽出物品・役務等</p> <p>①令和5年度遠隔確認ライセンス等の購入</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今回、落札率が100%ということで、恐らく金額が（推測しやすい）ものだったと思うが、仮に落札者が同額で2者あった場合は、優劣はどのようにつけるのか。</li> <li>・ 具体的な方法はどのようにしているのか。</li> <li>・ その場所毎によって担当の職員が行うのか</li> <li>・ （くじ引きの過程を）録画するのか。</li> <li>・ 遠隔確認システムについては開発元が数社あるとのことだが、今回、本製品を選択した経緯は。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 同額の場合は、くじ引きとなる。</li> <li>・ 方法については決まっていない。例としては、「こより」、「あみだくじ」など。</li> <li>・ 基本は、入札参加者がくじ引きを行うが、参加者が改札場所に立ち会っていない場合は、入札事務に関係ない職員が代理で行う。</li> <li>・ 録画までは行っていない。証拠書類を作成している。実際の事例としては、くじ引きを行った職員名、当たりとなった業者名を記録した書類を作成している。</li> <li>・ 選択した経緯は、第一に現場での監督職員による施工段階確認、材料検査、現場立会等、現場で行く作業を自席のパソコンで確認できること。第二に、土地改良技術事務所で保有しているドローンで災害現場を撮影できること。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 了解した。</li> <li>・ ライセンス期間は本年度いっぱいか。</li> <li>・ 導入によりどれほどのコスト削減を見込んでいるのか。</li> </ul>	<p>これらを満たす製品が本製品のみであったことから、この製品を購入することにした。この製品はOS付属のブラウザ上で作業を行うため、専用端末、専用ソフトが不要というメリットもある</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 然り。            今後は、本年度は試行段階であり、取り組み状況により今後の判断していく</li> <li>・ 職員は複数の工事を担当しており、立会など時間をかけて現場に出向くことが難しくなっている状況。これを活用することで業務の効率化が見込めると思われる。</li> </ul>
	<p>3. 再度入札における一位不動状況について</p> <p>意見・質問なし。</p>	
	<p>4. 指名停止について</p> <p>意見・質問なし。</p>	
	<p>無し</p>	
<p>委員会による意見の具申又は勧告の内容</p>	<p>無し</p>	

事務局：九州農政局総務部総務課

(注1) 必要があるときは、各事項を著しく変更することなく、所用の変更を加えることができる。

(注2) 公益社団法人等とは、公益社団法人又は公益財団法人（一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人又は公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第42条第1項に規定する特例社団法人又は特例財団法人を含む。）をいう。